

統 合 分 野

8 単位 (210 時間)

<ねらい>

- 地域で生活する対象の多様なニーズに対応する在宅ケアシステムにおける看護のあり方を学ぶ。
- 療養者と他の家族成員の心身の健康状態の回復・維持・増進をめざす看護の基礎を学ぶ。
- 療養者が望む生き方、暮らし方を支え、生活の質の維持・向上をめざす。
- 家族の発達課題を達成するためのセルフケア機能を支援する方法を学ぶ。
- 看護管理の原則を理解し、よりよい看護サービスとは何かを考える。
- 医療安全についての基礎知識を学び、安全を守るための看護の方法を理解する。
- 災害時における「人間」と「生活」を視点にした看護を学ぶ。
- ケーススタディの展開・発表を通して自己の看護観を養う。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
在宅看護論	在宅看護概論	1	30
	在宅看護の技術	1	30
	在宅医療に伴う支援	1	30
	在宅看護過程	1 / 4	15 / 105
看護の統合と実践	ケーススタディ	1	15
	看護マネジメント	1	30
	災害と看護	1	30
	看護の統合と実践	1 / 4	30 / 105
合 計		8	210

授業科目名	看護マネジメント			担当教員	遠藤 のり子		
分野	統合	教育内容	看護の統合と実践	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	3年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
現職の看護部長として看護部のトップマネジメントを行っている。 また、医療安全対策室での経験、感染対策室での経験をもつ。	実務経験をもとに、看護マネジメントについて実践的に展開する。実習での学びを振り返りながら現場で起こりうる看護について演習を行う

授業のねらい・概要
1. 医療における安全対策の取り組みを理解する 2. 看護管理の原則を理解し、看護サービスについて理解する 3. チーム医療における看護師の役割を理解する

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	組織とマネージメント	講義	
2	看護管理の原則と基礎 看護チームのマネージメント	講義	
3	医療安全と看護の理念	講義	課題シート
4	事故発生のメカニズム リスクマネージメント	講義	
5	移動、移送における危険 患者誤認の防止	講義/演習	課題シート
6	入浴・シャワー浴における危険 転倒の防止策	講義/演習	
7	チューブ類のトラブル 皮膚損傷防止	講義/演習	
8	診療の補助と安全	講義/演習	課題シート
9	チーム医療からみる医療安全 1	講義/演習	
10	チーム医療からみる医療安全 2	講義/演習	
11	チームナーシング 1	講義/演習	課題シート
12	チームナーシング 2	講義/演習	
13	組織としての医療安全対策	講義	
14	医療事故防止策、事故発生の対応	講義	
15	院内感染防止策	講義	

使用教科書・教材・参考書
ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 MCメディカ出版

成績評価の方法
筆記試験100点
備考

授業科目名	看護の統合と実践			担当教員	洪木里子・他		
分野	統合	教育内容	看護の統合と実践	総単位 時間数	1 30時間	年次	3

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院で看護師として看護を提供していた経験を活かし現場で遭遇しやすい場面を考える。臨床工学士として医療機器の取り扱いについて実践している。海外での看護の経験を活かし国際看護について考えていく。	実務経験を活かし看護現場で遭遇しやすい場面について例題を上げてグループでの意見を参考にしながら実践に結びつけるように考えていきます。現場に出たときに活用するベースを作ります。

授業のねらい・概要
1.医療チームの一員としてのチームワークとコミュニケーションについて理解する 2.複数の模擬患者への看護実践を行う 3.グローバルヘルスにおける看護師の役割を理解する 4.チーム医療における看護師の役割を理解する

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	看護におけるチームワークとリーダーシップ様々な場における看護	講義	
2	多職種とのチームワークと連携	講義／演習	課題シート
3	優先順位の決定1	演習	
4	優先順位の決定2	演習	
5	複数患者を受け持つための情報共有1	演習	課題シート
6	複数患者を受け持つための情報共有2	演習	
7	1日の時間管理	演習	
8	安全なケアの遂行1	演習	
9	安全なケアの遂行2	演習	課題シート
10	グローバリゼーションと看護の国際協力	講義	
11	我が国に滞在する外国人の看護	講義	
12	刻々と移り行く状況に応じた援助1	演習	状況設置問題
13	刻々と移り行く状況に応じた援助2	演習	状況設置問題
14	刻々と移り行く状況に応じた援助3	演習	状況設置問題
15	刻々と移り行く状況に応じた援助4	演習	状況設置問題

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 看護学概論 医学書院 他

成績評価の方法
筆記試験 100点

備考

授業科目名	災害と看護			担当教員	朝倉 由美 長坂 陽介		
分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	3年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
高度急性期の救急医療の現場で実践を行いながら、日本DMAT隊員としても活動をしている。震災時など被災病院や被災地の避難所、救護所での看護活動や生活支援の経験もあり、災害発生時の急性期から回復期、慢性期への看護実践を多く経験している。	実務経験をもとに、災害時の医療支援体制及び救護活動について授業する。被災地での支援活動の実際をふまえ、日ごろの防災・減災の備える活動につなげる。

授業のねらい・概要
1. 災害及び災害看護に対する関心を高める。 2. 災害サイクル、災害種別・災害者別による災害看護の特徴を理解する。 3. 災害時における「人間」と「生活」を視点にした看護について理解する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	災害の歴史と災害看護の歩み 災害の定義 災害看護の定義 災害の種類と健康被害	講義	
2	災害看護と法律 災害対策基本法 災害救助法 被災者支援制度 法的課題	講義	
3	災害急性期の看護活動 避難所での生活支援 災害時要配慮者・避難行動要支援者	講義	
4	災害急性期医療の特徴(1):被災地での初動体制 避難所立ち上げと専門職の協働	野外活動	課題シート
5	災害医療実施のための系統的アプローチ CSCATTT 急性期医療・看護との違い	演習	
6	災害時活動の理解 被災地体験学習(学習施設):自助・共助・公助	施設見学	
7	災害急性期医療の特徴(2):被災病院での初動体制 災害対策本部、傷病者受け入れ、各部署・各病棟の体制	講義/演習	課題シート
8	災害時の3T トリアージ	講義/演習	
9	災害時の3T 治療(応急手当)・搬送	講義/演習	課題シート
10	災害慢性期の看護活動 在宅での生活支援 安全対策・健康管理・防災教育	講義/演習	
11	災害とこころのケア(1) 被災者・遺族・救護者の対象理解	演習	
12	災害とこころのケア(2) 災害時の対象へのこころの救護法	演習	
13	被災者特性に応じた看護(1) 災害関連死の予防と兆候	講義	課題シート
14	被災者特性に応じた看護(1) 災害関連死を防ぐための取り組み	演習	
15	災害慢性期・復興期・静穏期の看護活動 地域の体制・病院の体制・地域の各種団体との連携・課題	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、提出物30点

備考
・調べ学習を活用し、体験学習とともに理解促進をねらいます。また、既習の講義や実習内容も関連した科目です。 ・既習の看護を総動員して学びましょう。

授業科目名	ケーススタディ			担当教員	土澤り		
分野	統合分野	教育内容	看護の統合と実践	総単位 時間数	1単位 15時間	年次	3年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院で看護師として実践した看護について論文としてまとめ研究発表を行う。	文献検索の方法を学び文献リストを作成する。看護実践の結果としてデータ収集の方法、分析方法を学び実際に1事例について事例研究としてまとめる。全学年参加の発表会で視聴覚資料を用いて発表する。

授業のねらい・概要
ケーススタディを通して自らの看護観を明らかにする

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	ケーススタディの意義・方法 文献検索 文献リスト	講義／文献リスト作成	実習記録
2	文献の活用 研究計画書作成①	講義／研究計画書作成	文献リスト 実習記録
3	研究計画書作成②	演習	文献リスト/研究計画書 実習記録
4	ケーススタディの展開1 論文の形式	演習	研究計画書/本原稿 文献
5	ケーススタディの展開2 ケーススタディの実際	演習	本原稿 文献
6	ケーススタディの展開3 ケーススタディの文章化	演習	本原稿 文献
7	ケーススタディによる看護の共有1	リハーサル	発表原稿 視聴覚資料、抄録
8	ケーススタディによる看護の共有2	発表会	発表原稿 視聴覚資料、抄録
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書
「埼玉県看護学生研究発表会集録集」

成績評価の方法
研究計画2点、抄録8点、本原稿60点、発表30点

備考
*実習記録はすべて記録庫に収納するのでこれまでの記録を持参してください。